

橋を架ける

17やまなし人模様

~5~

鮮やかなピンク色にラッピングされたワゴンは、春から秋にかけて富士北麓地域を走る。県産桃を原材料とした桃のスマージーの移動販売車。3年前、UTAーン就農した森田絵美さん(30)が、ニュージーランド出身の夫マシュー・ブラウンさん(32)と始めた試みだ。

加工し販売

森田さんは笛吹市御坂町上黒駒の桃農園「モリタファーム」の跡取り。ワーキングホリデーでオーストラリア滞在中にマシューさんと知り合い、24歳で国際結婚。現地で暮らすうち「ビーチ」を食べたときに受けた衝撃が、家業を継ぐきっかけにな

果実農園経営

森田絵美さん



県産桃の魅力を海外へ

また。マーケットの棚で無造作に山積みされたそれは、子どものころ果実を丁寧に扱うよう教え込まれた者にとって、異様な光景だつた。実は日本のものより小ぶりで硬く、甘みは少ない。「やつぱり日本、山梨の桃こそがおに傷があるだけで、出荷時の価格は大きくて格は大きく低下。一束三文下。」東三文で売るよりは何かに生かせないかと考え、マシュー

いい」。にわかに芽生えた桃栽培への憧れ。園主だった祖父が体調を崩したのを機に古里へ戻った。

農園の経営に携わると、傷がない求める人は主に外国人観光客。「本当にこれがピーチなの？」**「色がきれいでイミテーション（食玩）かと思つた」**。桃

移動販売車でスマージーを販売することを思いついた。

スマージーに加工、外国人向けに販売することを希望する人も多い。日本人が当たり前のように海外で桃と向き合う。仕込みや事務仕事で、寝るのが日付が変わることになることも。しかし観光客が見せる新鮮な反応がやりがいとなり、厳しいスケジュールも苦にならない。

の栽培過程を写真と英語でまとめた冊子を見せる。多くは驚きの表情を見せる。大きく、鮮やかに色づいた桃を海外で見る機会がほとんどないためだ。袋かけや摘果作業を説明すると、農園を見たいと希望する人も少なくない。

発信続ける

4

10月の日中は、ほぼ毎日

移動販売に時間を費やす。出荷

4

と夫マシュー

・ブラウンさ

ん

坂町上黒駒

移动販売に時間を使います。出荷

4

けて発信し続けるつもりだ。

（渡辺浩人）（おわり）